岩手山の火山活動解説資料（令和８年 10 月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

火山性地震の発生頻度は７月中旬以降少ない状態が続いており、山体膨張を示す地殻変動も７月下旬以降観測されていません。火山活動は概ね静穏に経過しています。
想定火口内では、火山灰、火山ガス、熱水等が突発的に噴出する可能性があります。特に大地獄谷付近では、火山ガスの噴出や地熱の高まりがみられていますので注意が必要です。
火山活動に十分注意し、地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図１-②③、図２～３）

黒倉山付近や山頂付近を震源とする火山性地震は 2026 年７月中旬以降、少ない状態が継続しています。山頂やや深部の低周波地震[1)]は、2024 年 12 月中旬頃から増減を繰り返しながらも発生頻度がやや高い状態で継続しています。

今期間、火山性微動は観測されませんでした。

1）東岩手山では、山頂のやや深部（深さ６～９km 付近）において、低周波地震の活動が認められます。この低周波地震の活動は、火山活動が静穏な状況下でもみられ、連続して発生することもあるため、噴火警戒レベルの判定基準に含めないこととしています。

・噴気など表面現象の状況（図１-①、図４～12）

黒倉山監視カメラによる観測では、11 日、12 日及び 26 日に大地獄谷で 100m程度の高さの噴気を観測しました。それ以外の期間は、概ね 80m以下で経過しました。また、大地獄谷では 2023 年及び 2024 年と比較して 2025 年４月以降、非地熱域より温度が高い領域がわずかに拡大した状態を維持していますが、更なる拡大は認められません。

柏台監視カメラによる観測では黒倉山山頂の噴気は 10m以下で経過し、長山篠川原監視カメラによる観測では噴気は認められませんでした。岩手山山頂及び大地獄谷の噴気は認められず、噴気活動に特段の変化はなく低調に経過しました。

７日から８日にかけて実施した無人航空機（ドローン）による観測では、西小沢で地熱域の拡大が認められました。西小沢周辺や黒倉山東側崖面では、植物の枯死や裸地の広がりが確認されました。

23 日に実施した現地調査では、大地獄谷や姥倉山東斜面で 2024 年以前の観測結果と比較して、地熱域の一部に昇温が認められました。また、西小沢周辺では、噴気が認められました。

・地殻変動の状況（図 13～14、図 16）

岩手山周辺の一部のひずみ計では、2026 年８月頃から検出器周囲の岩盤から受ける力による膨張ひずみが観測されています。一方、傾斜計及び GNSS 連続観測ではこのひずみの変化に対応するような傾斜変動及び基線長の変化は認められません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和８年11月分）は令和８年12月８日に発表する予定です。
資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。
本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています。

○活動評価

大地獄谷や黒倉山周辺の熱活動はわずかに高まった状態を維持していますが、火山性地震の発生頻度は７月中旬以降少ない状態が続いており、傾斜計及び GNSS 連続観測では、山体膨張を示す地殻変動も７月下旬以降観測されていません。火山活動は７月下旬以降概ね静穏に経過しています。

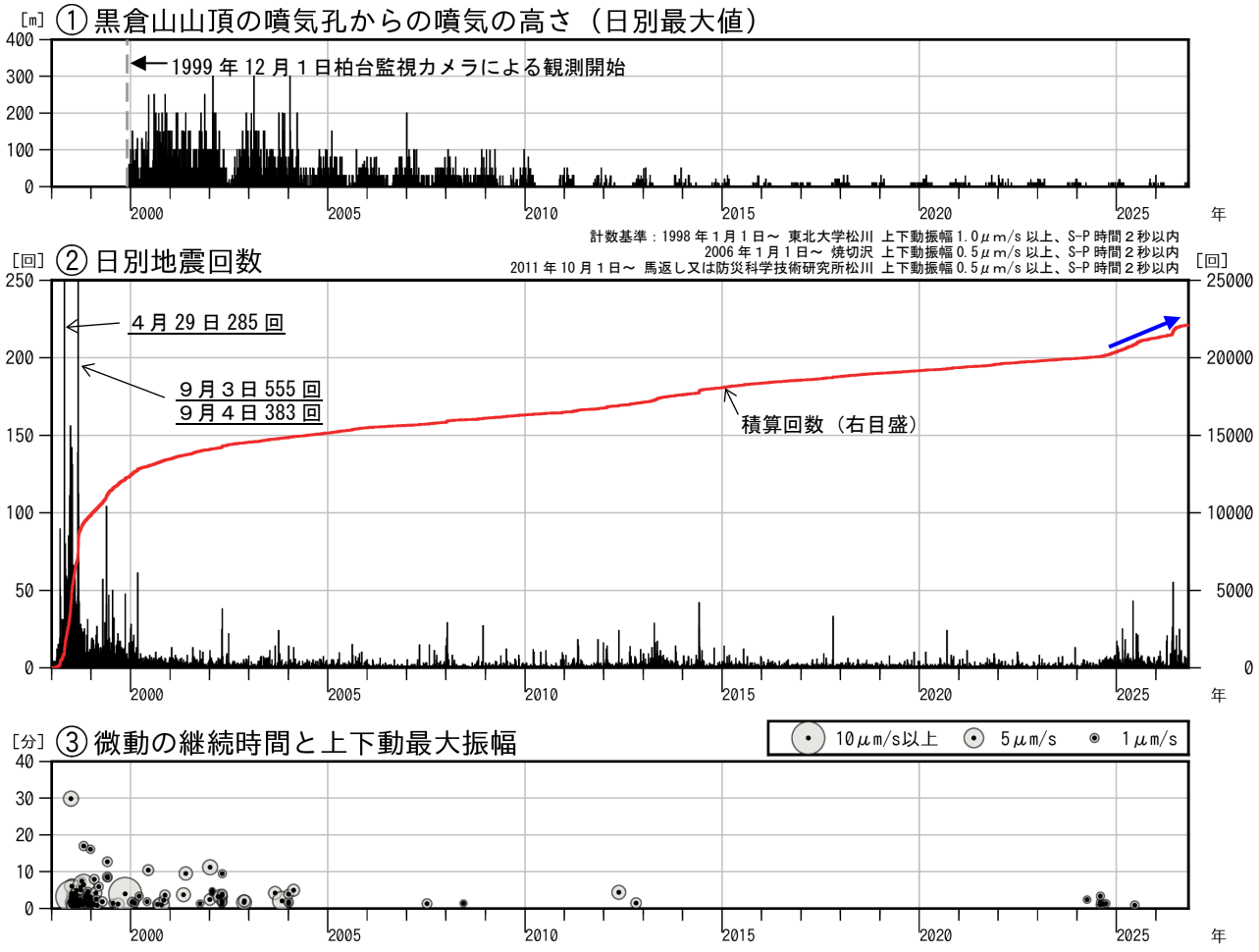


図１　岩手山　火山活動経過図（1998 年１月～2026 年 10 月）

②2000 年１月以降は滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を除外した回数です。
（1998 年から 1999 年までは滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を含みます）

今期間、黒倉山山頂の噴気活動は低調に経過しました（①）。

火山性地震は 2024 年７月頃からやや多い状態で推移していましたが（②青矢印）、2026 年７月中旬以降、少ない状態が続いています。

今期間、火山性微動は観測されませんでした（③）。

1998 年の活動と比較すると、火山性地震や火山性微動の発生頻度は低く、噴気活動の高まりも特段認められません。

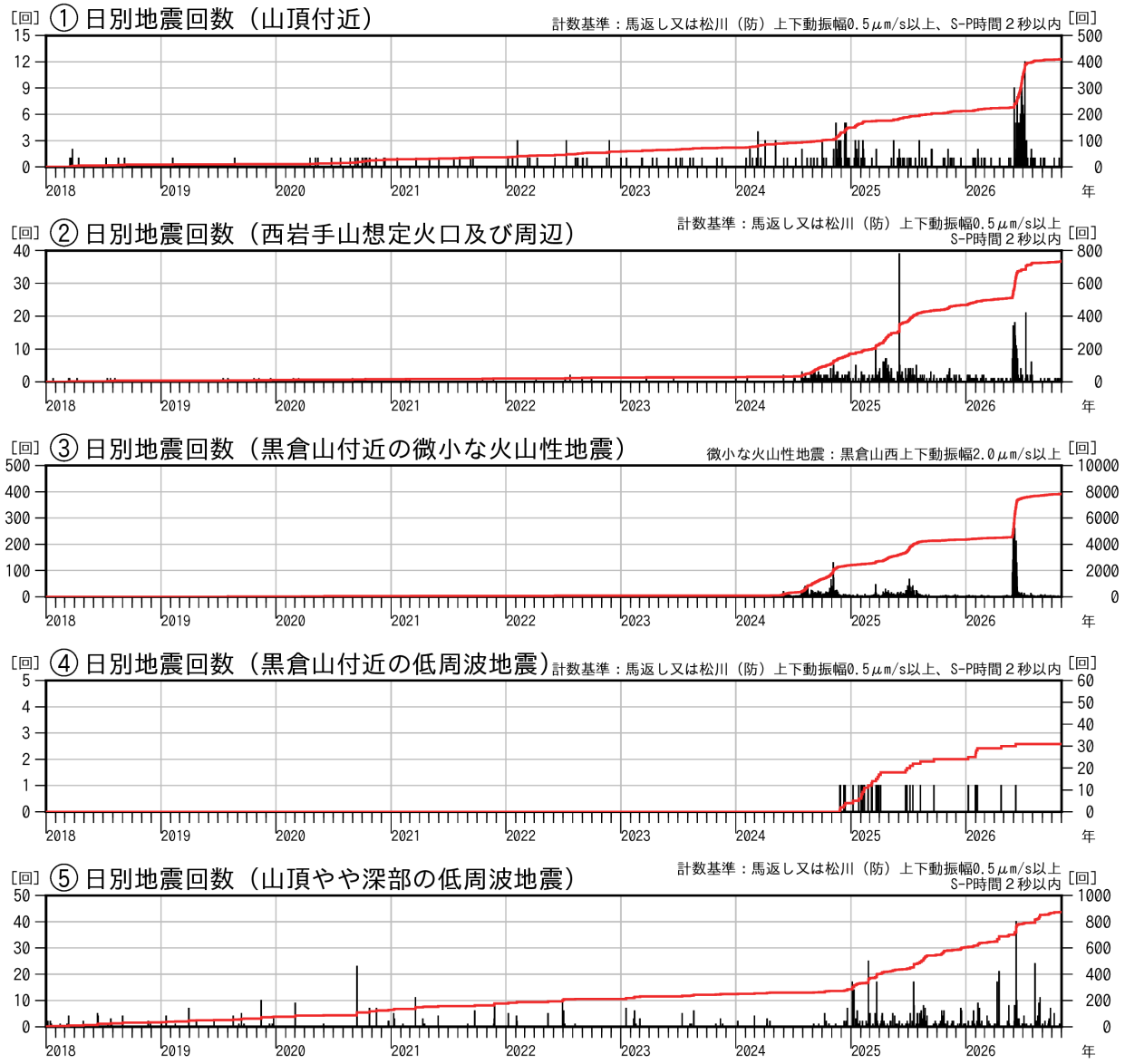
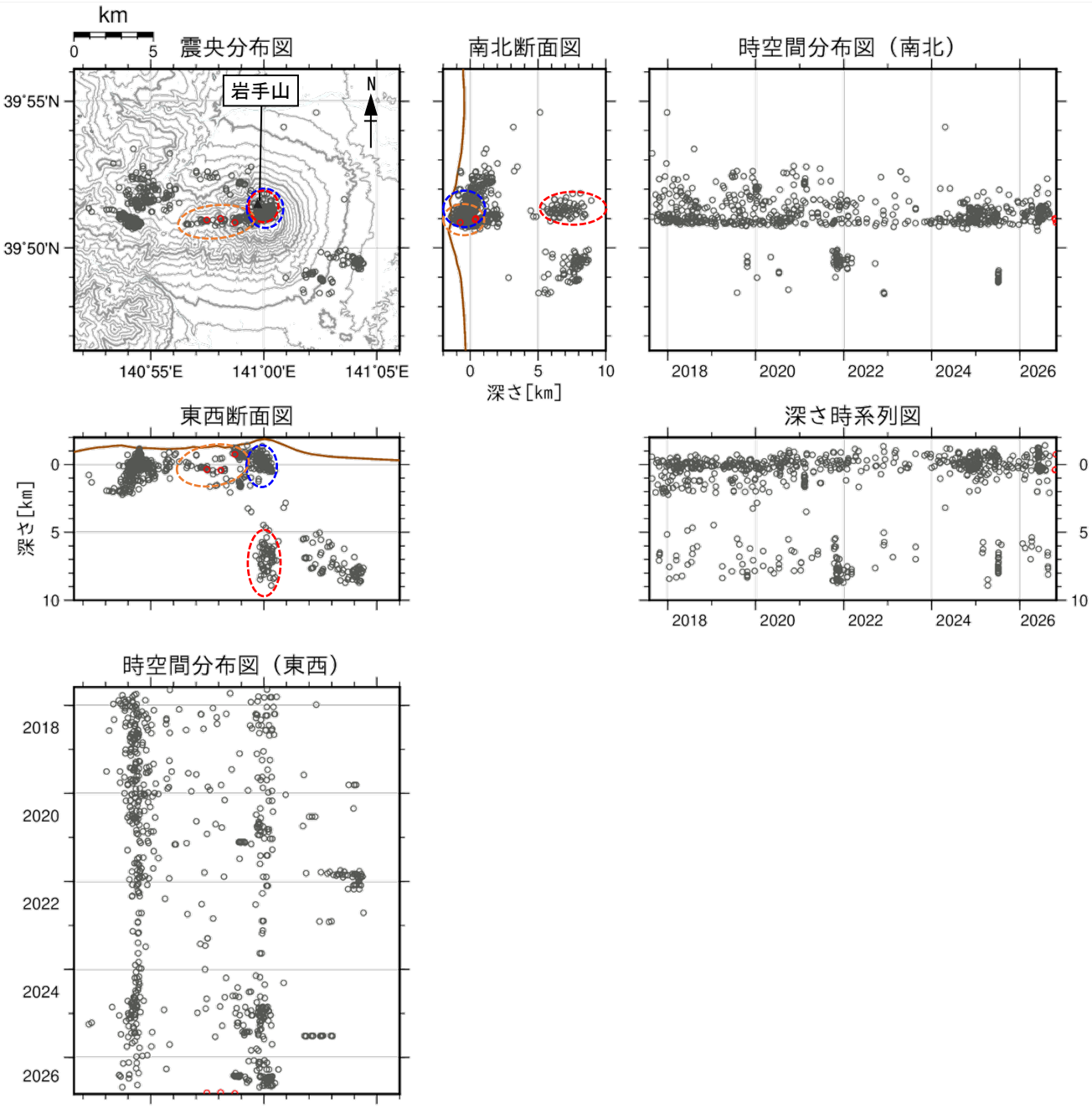


図２　岩手山　日別地震回数（2018 年１月～2026 年 10 月）

②西岩手山の想定火口（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level/PDF/level_207.pdf 参照）及びその周辺（図３の橙破線で示す領域）で発生した火山性地震の日別回数を示します。
③西岩手山の想定火口の一部である黒倉山付近で発生した微小な火山性地震のみの日別回数であり、③以外で示す火山性地震の日別回数には含まれません。
赤線は地震回数の積算（右目盛）を示します。

山頂付近や西岩手山の想定火口及びその周辺を震源とする火山性地震は、７月中旬以降、少ない状態で推移しています（①②）。
黒倉山付近を震源とする微小な火山性地震は、今期間、少ない状態で経過しました（③）。
黒倉山付近の低周波地震は、今期間、観測されませんでした（④）。
山頂やや深部の低周波地震は、2024 年 12 月中旬頃から増減を繰り返しながらも発生頻度がやや高い状態で継続しています（⑤）。



○：2026 年 10 月１日～10 月 31 日　○：2017 年８月１日～2026 年９月 30 日

図３　岩手山　地震活動（2017 年８月～2026 年 10 月）

・青破線は山頂付近、橙破線は西岩手山の想定火口及びその周辺で発生する火山性地震のおおよその領域を示します。赤破線の領域は山頂やや深部で発生する低周波地震の震源域を示します。

今期間、震源が求まった火山性地震は３回で、いずれも西岩手山の想定火口及びその周辺に分布しました。



図４　岩手山　黒倉山監視カメラからの状況（10 月 12 日）
・黒倉山監視カメラ（大地獄谷の西約 500m）の映像です。

大地獄谷では、11 日、12 日及び 26 日に 100m程度の高さの噴気を観測しました。それ以外の期間は、概ね 80m以下で経過しました。

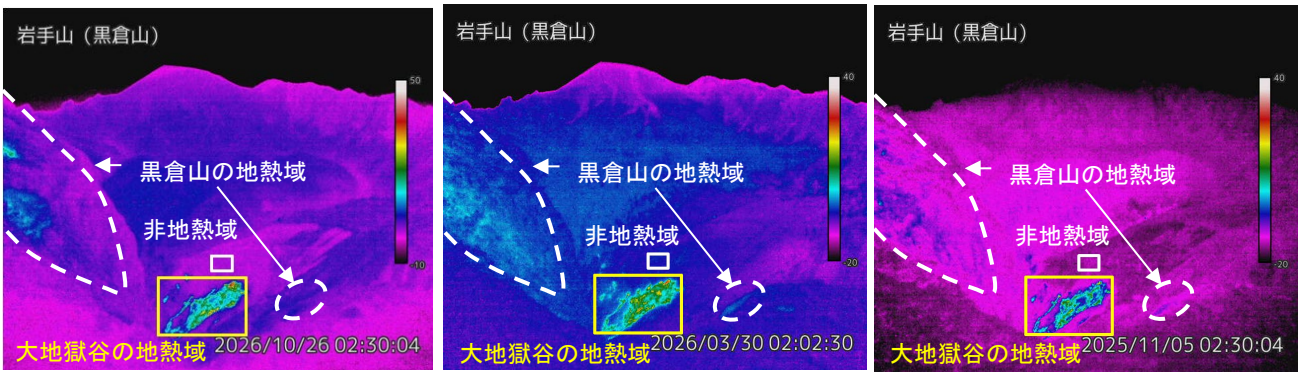


図５－１　岩手山　黒倉山監視カメラからの地表面温度分布
（2026 年 10 月 26 日、2026 年３月 30 日及び 2025 年 11 月５日）

・黒倉山監視カメラ（大地獄谷の西約 500m）で観測された赤外熱画像を示します。
・黄色四角と白四角の領域は、それぞれ図５－２の解析における大地獄谷の地熱域と非地熱域の領域を示します。

大地獄谷では、2025 年 11 月の観測結果と比較して、2026 年 3 月に地熱域のわずかな拡大が確認されました。
今期間、地熱域のさらなる拡大傾向は認められませんでした。

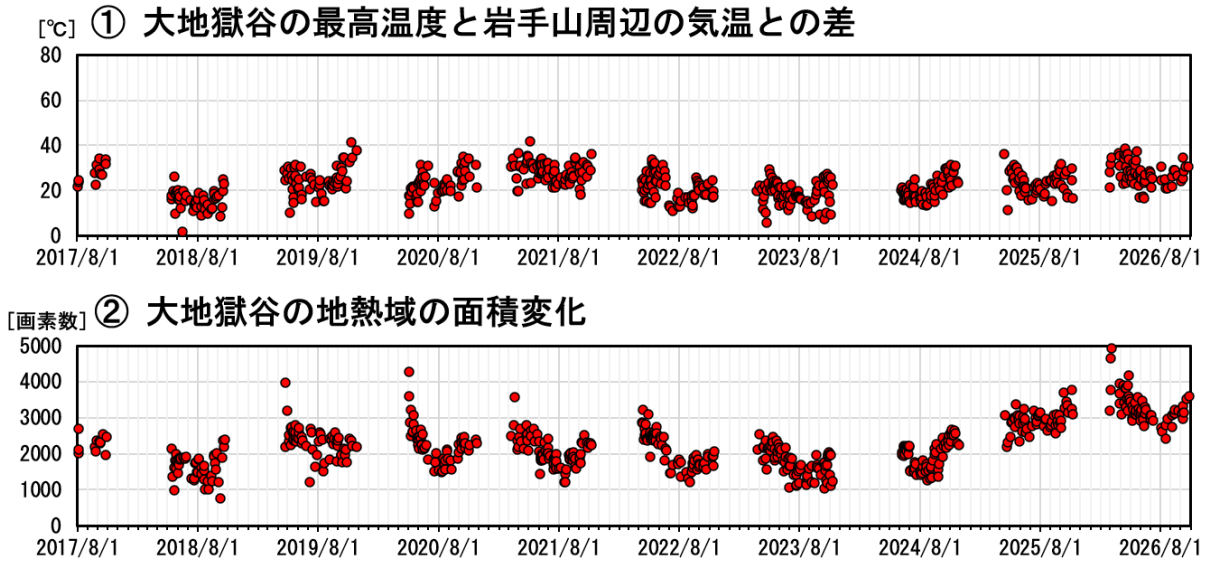


図５－２　岩手山　黒倉山監視カメラによる大地獄谷の地熱域の経過（2017 年８月～2026 年 10 月）

・①は大地獄谷の地熱域の最高温度と岩手山周辺（アメダス岩手松尾観測点）の気温との差を示します。
・②は大地獄谷の地熱域内で、非地熱域の平均温度よりも５℃以上高い領域の画素数を示します。

2023 年及び 2024 年と比較して、2025 年４月以降、非地熱域より温度が高い領域がわずかに拡大した状態を維持しています（②）。なお、大地獄谷最高温度と岩手山周辺の気温の差は例年並みで経過しています（①）。

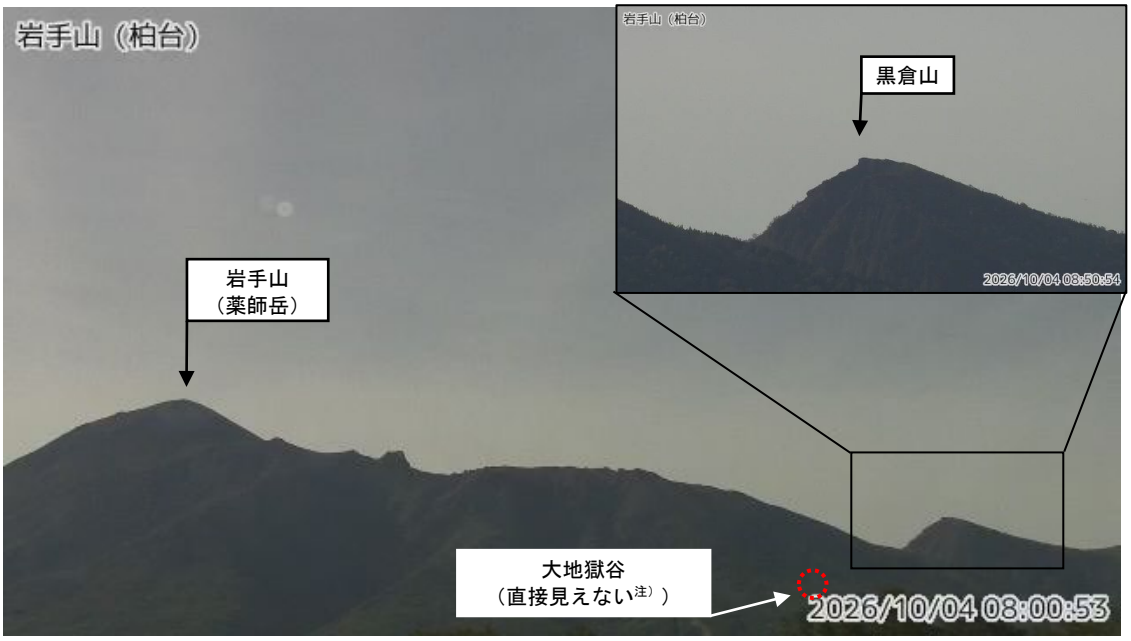




図６　岩手山　山頂部から黒倉山周辺の状況

・上図：柏台監視カメラ（黒倉山山頂の北約７km）の映像（10 月４日）です。
・下図：長山篠川原監視カメラ（黒倉山山頂の南約９km）の映像（10 月４日）です。
注）大地獄谷からの噴気は、高さ 200m以上のときに観測されます。
　　赤破線が大地獄谷の位置を示します。

柏台監視カメラによる観測では黒倉山山頂の噴気は 10m以下で経過し、長山篠川原監視カメラによる観測では噴気は認められませんでした。岩手山山頂及び大地獄谷の噴気は認められず、噴気活動に特段の変化はなく低調に経過しました。

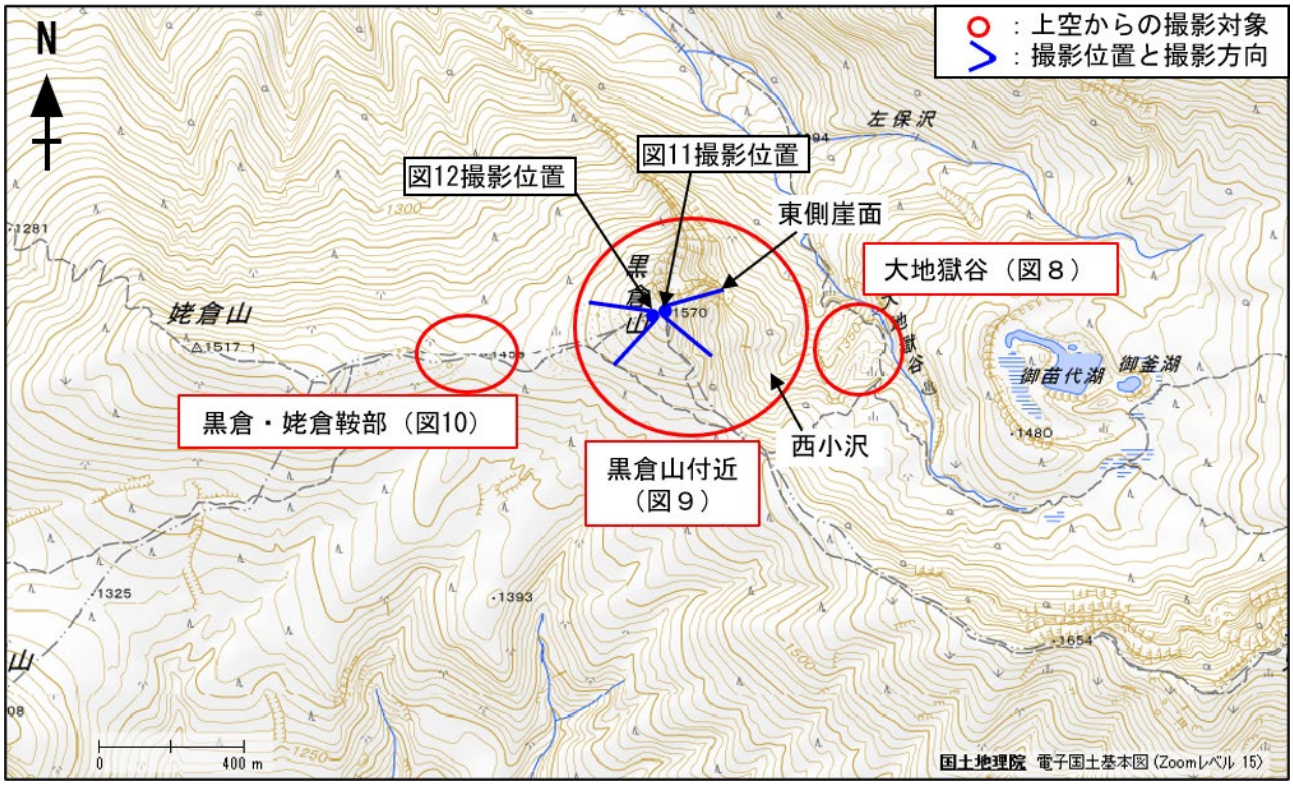


図７　岩手山　地表面温度分布の撮影対象、撮影位置及び撮影方向

無人航空機（ドローン）による撮影対象（図８～10）及び現地調査での撮影位置及び撮影方向（図 11～12）を示しています。

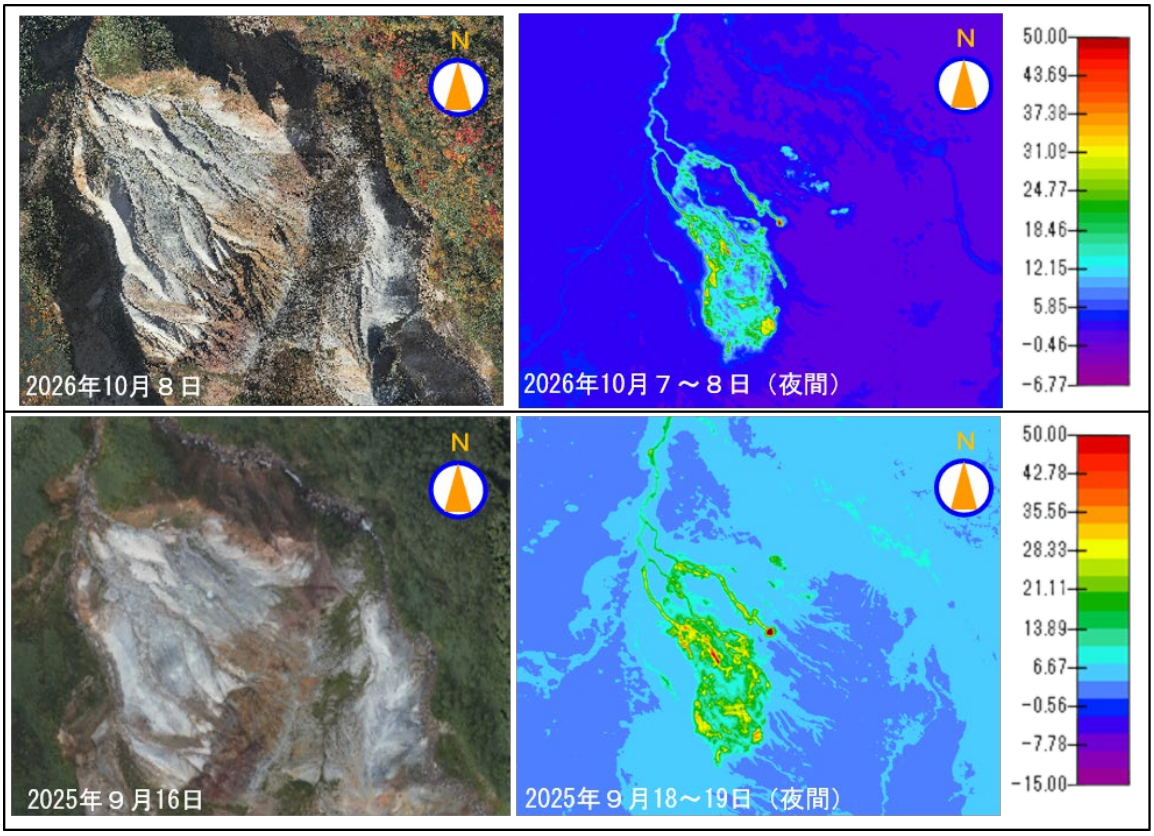


図８　岩手山　無人航空機（ドローン）で観測した上空からの大地獄谷の状況と地表面温度分布
※気温などの観測条件の違いにより、前回の観測と地表面温度分布の見え方が異なります。

無人航空機（ドローン）による観測では、2025 年９月と比較して、噴気や地熱域の状況に顕著な変化は認められませんでした。

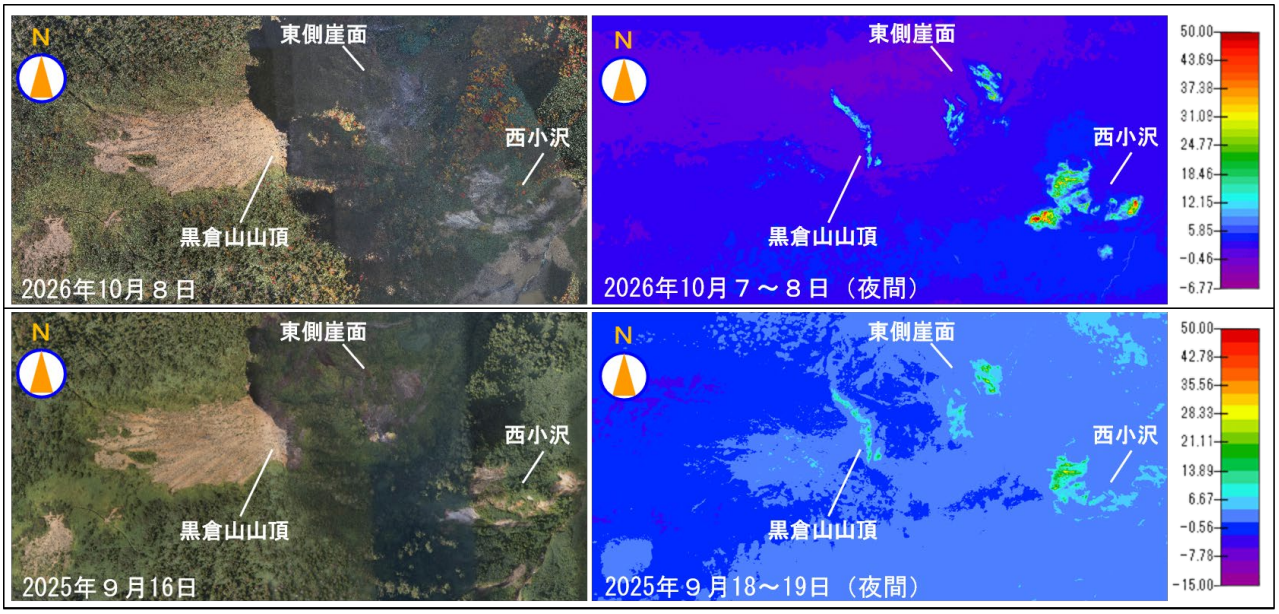


図９　岩手山　無人航空機（ドローン）で観測した上空からの黒倉山・西小沢の状況と地表面温度分布
※気温などの観測条件の違いにより、前回の観測と地表面温度分布の見え方が異なります。

無人航空機（ドローン）による観測では、2025 年９月と比較して、西小沢で地熱域の拡大が認められました。西小沢周辺や黒倉山東側崖面では、植物の枯死や裸地の広がりが確認されました。

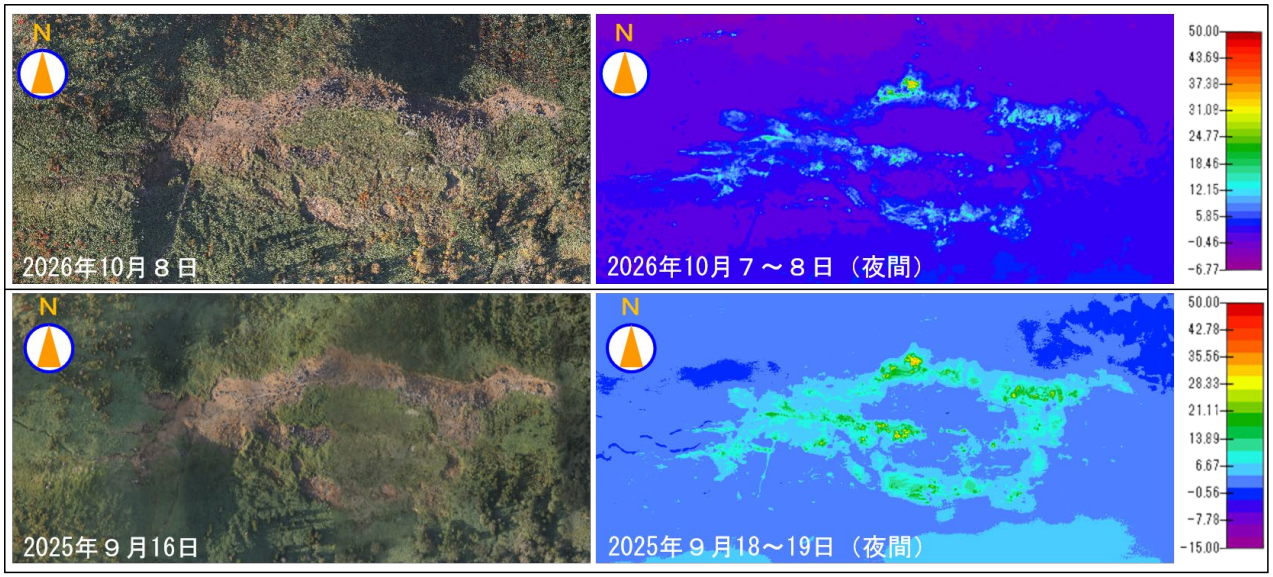


図 10　岩手山　無人航空機（ドローン）で観測した上空からの黒倉・姥倉鞍部の状況と地表面温度分布
※気温などの観測条件の違いにより、前回の観測と地表面温度分布の見え方が異なります。

無人航空機（ドローン）による観測では、2025 年９月と比較して、噴気や地熱域の状況に顕著な変化は認められませんでした。

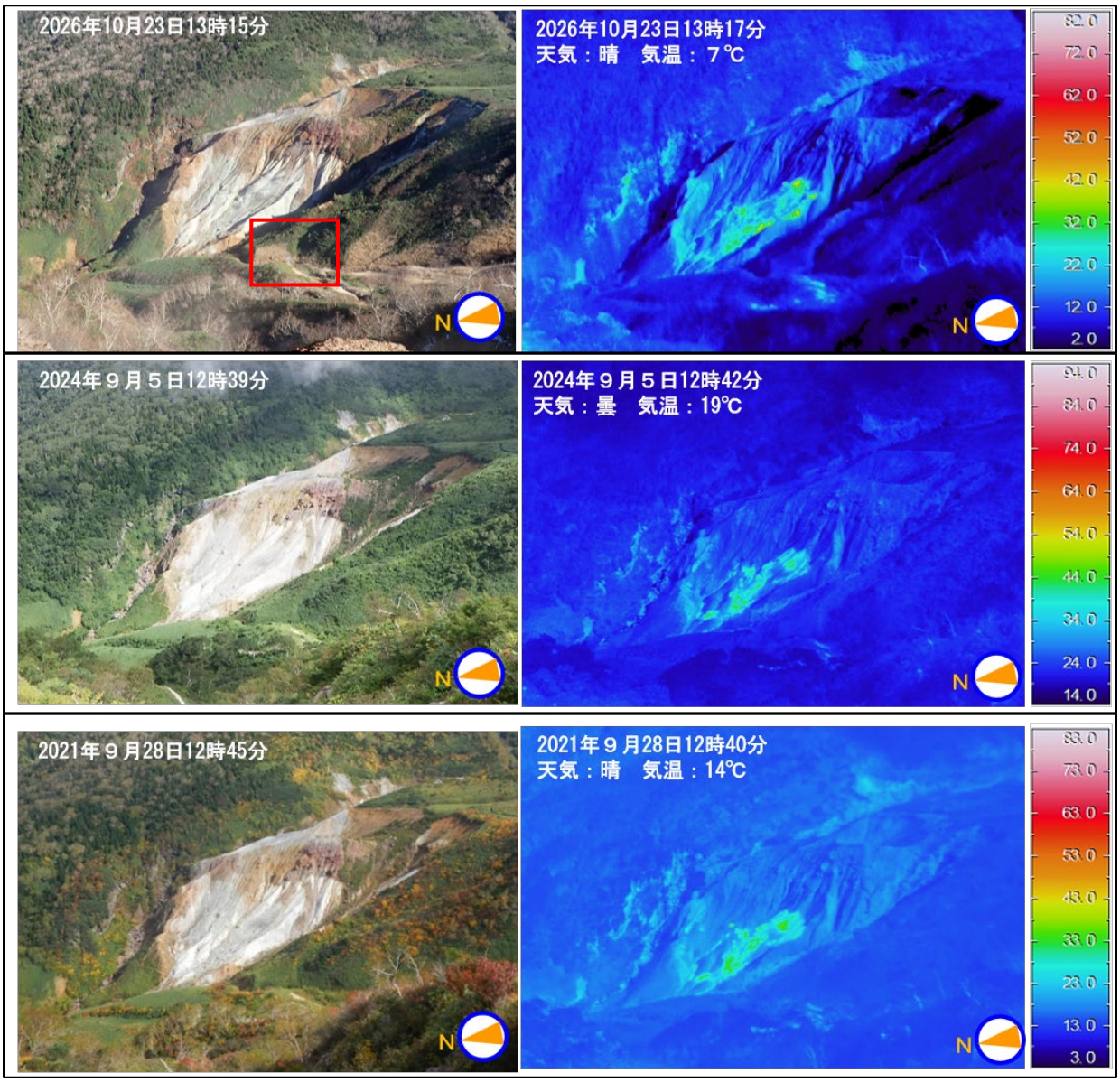


図 11－１　岩手山　大地獄谷の状況と地表面温度分布

・日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。
・赤四角は、図 11－２の写真のおおよその範囲を示します。

大地獄谷では、2024 年以前の観測結果と比較して、地熱域の一部に昇温が認められました。



図 11－２　岩手山　黒倉山付近から望む西小沢周辺の状況

今回の現地調査では、図 11－１で示す赤四角の範囲に、噴気が認められました。

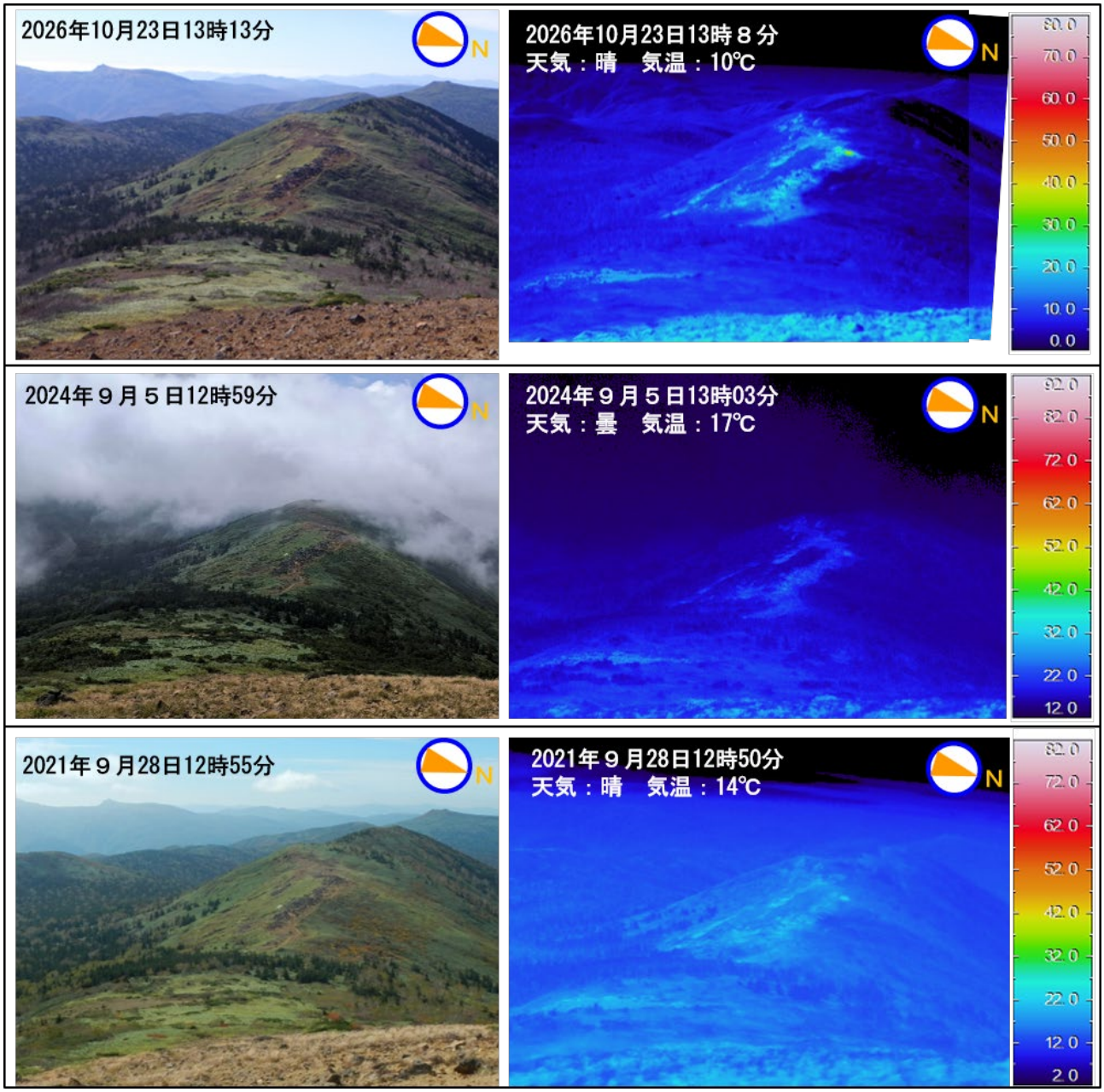


図 12　岩手山　姥倉山東斜面の状況と地表面温度分布
・日射の影響により、裸地等では表面温度が高めに表示されています。

姥倉山東斜面では、2024 年以前の観測結果と比較して、地熱域の一部に昇温が認められました。

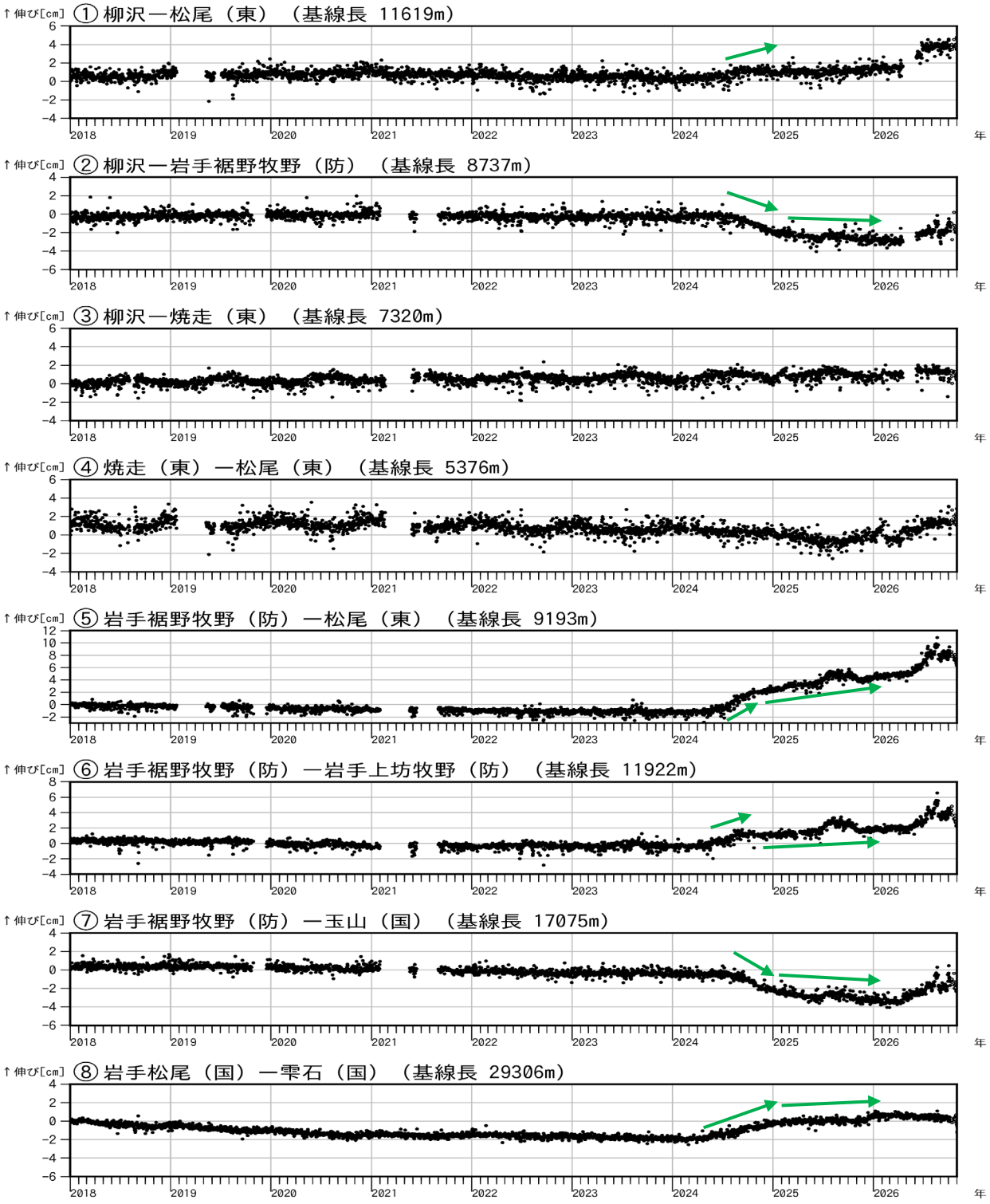


図 13　岩手山　GNSS 基線長変化図（2018 年１月～2026 年 10 月）

・①～⑧は図 16 の GNSS 基線①～⑧に対応しています。　　・空白部分は欠測を示します。
・（国）は国土地理院、（東）は東北大学、（防）は防災科学技術研究所の観測点を示します。
・基線②、⑤、⑥及び⑦では、＊で示すように 2025 年６月下旬から 11 月下旬及び 2026 年５月下旬以降、岩手裾野牧野（防）観測点に起因する変化がみられますが原因は不明です。
・2025 年 12 月８日に発生した青森県東方沖の地震や 2026 年４月 20 日の三陸沖の地震に伴うステップ状の変化や、地震後の余効変動によると考えられる基線長の変動がみられます。
・2024 年４月から 2026 年１月頃まで、火山活動活発化による山体膨張を示す変化（緑矢印）が認められていました。

2026 年１月頃から火山活動によると考えられる明瞭な変化は認められません。

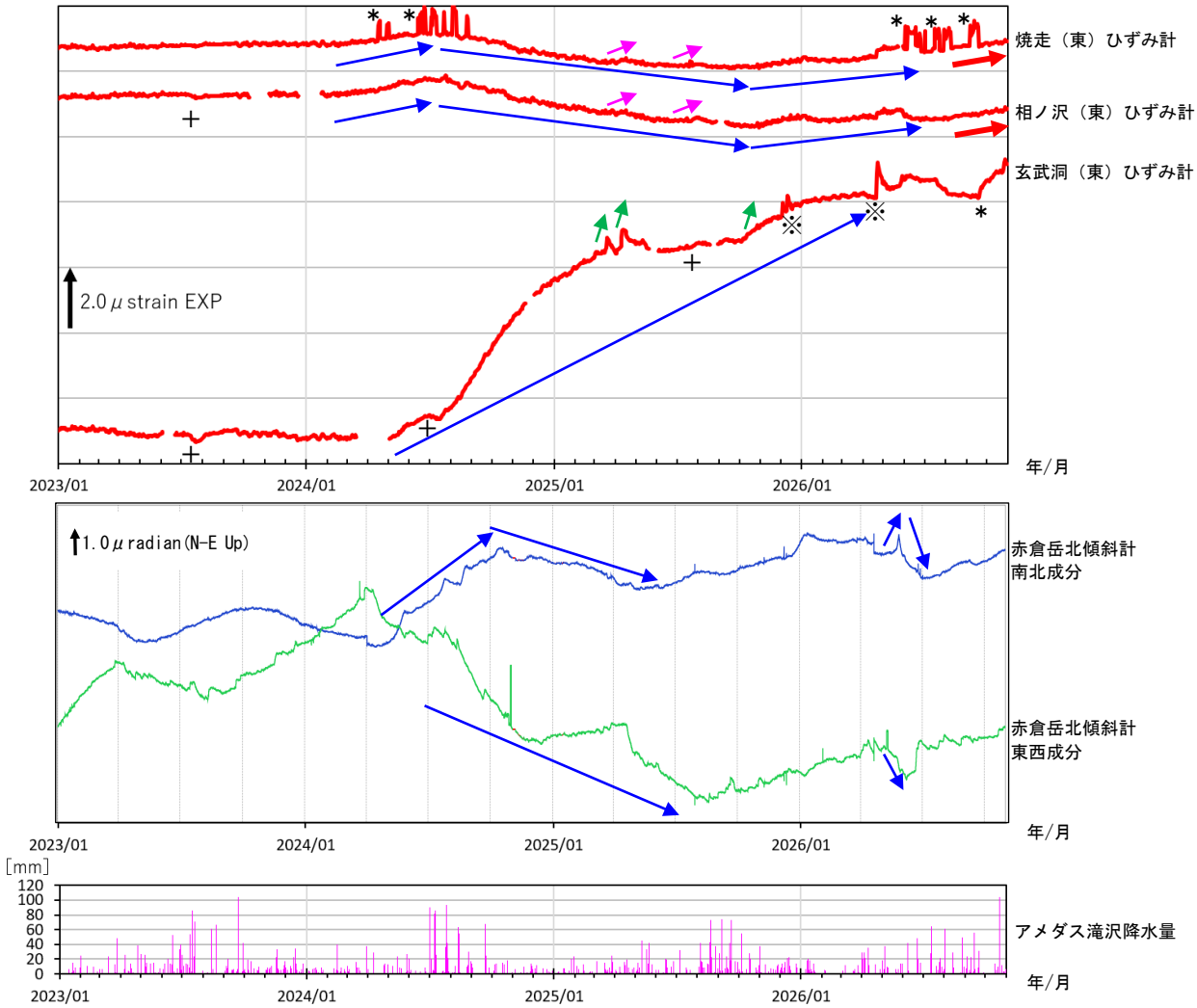


図 14　岩手山　ひずみ計・傾斜計による地殻変動の状況
（2023 年１月～2026 年 10 月）

・ひずみ変化は日値、傾斜変動は毎時値です。また、ひずみ変化についてはトレンド補正処理をしています。
・空白部分は欠測を示します。
・（東）は東北大学の観測点を示します。
・焼走（東）及び相ノ沢（東）のひずみ計では、2025 年３月中旬から４月上旬と７月中旬から７月下旬にかけて、短期的なひずみ変化がみられました（桃矢印）。
・玄武洞（東）のひずみ計では、2025 年３月中旬、４月上旬及び 12 月上旬に膨張の変化率の一時的な増加がみられました（緑矢印）。
・岩手山周辺のひずみ計や傾斜計では、2024 年２月以降、東岩手山のやや深部の開口割れ目の膨張や山体西側のやや深部の膨張など、山体膨張を示す変化（青矢印）が認められていました。
＊：収録機器の不具合による変動です。※：遠隔地の地震による変動です。
＋：降水による影響の可能性がある変動です。

岩手山周辺の一部のひずみ計では、2026 年８月頃から検出器周囲の岩盤から受ける力による膨張ひずみが観測されています（赤矢印）。傾斜計及び GNSS 連続観測（図 13）では、このひずみの変化に対応するような変化は認められません。

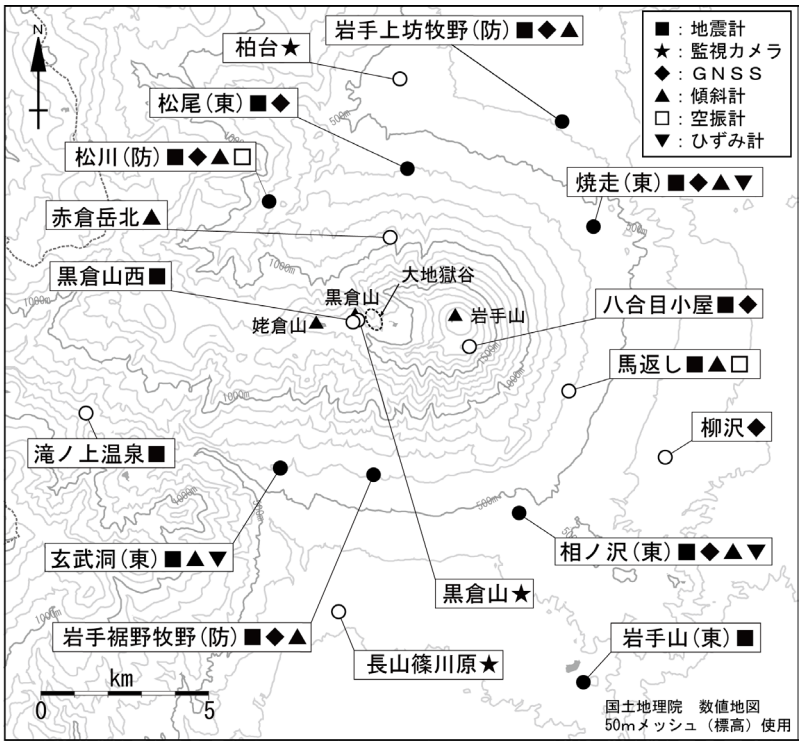


図 15　岩手山　観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（東）：東北大学　　（防）：防災科学技術研究所

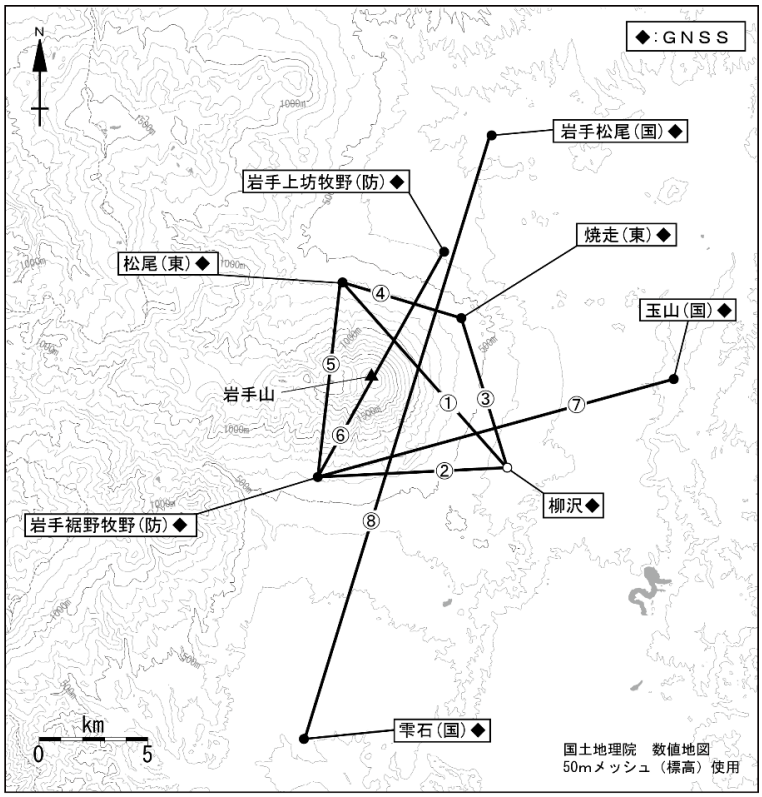


図 16　岩手山　GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院　　（東）：東北大学
（防）：防災科学技術研究所